

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩 2023年度通常総会 報告

日時:2023年5月21日(日) 14時から15時まで

会場:調布市たづくり1001学習室

司会:中川恭一(事務局)

1 理事長挨拶

新型コロナウイルス感染症は、ようやく互いに注意しながら乗り越えていく見通しがたってきたようだ。こういう対面の形で総会を開けるようになったのは嬉しい。3年間、外からは休眠状態に見えたかもしれないが、中では「多摩デポ通信」や本日の議案書でも報告しているように、それぞれ次のステップに向けた努力をしてくれている。コロナ後の状況を見極めながら、本日を新たなスタートの一步としたい。

2 総会成立(定足数)の確認

報告(事務局 鬼倉)

正会員総数:82(個人80名、団体2団体)。

定款第26条により、定足数(正会員総数×1÷2)は、41。

出席者21、書面表決出席者37、合計58で定足数を満たしており、総会は成立。

*11時20分に受信していたメール1通を総会終了後に確認したため、開会時の報告より書面表決出席者が「1」増えている。

3 議長の選出

事務局より提案。座間直壯氏を選出。

4 書記および議事録署名人の選出

事務局より提案。書記には雨谷逸枝氏を、議事録署名人には江森隆子氏と鬼倉正敏氏を選出。

5 議事

(1) 第一号議案 2022年度事業報告承認について

説明(堀 渡 事務局長)

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延下、Zoomを使った活動が多くなった。総会前の意見交換会もそのひとつ。
- ・一カ所に集める前の段階として、希少なタイトルなので保存を図りたいが、共同保存する場所が確保できずに各館でそれぞれ保存しておくのを我々はバーチャル共同保存図書館と呼んでいる。この事業については、(株)カーリルと共同開発したTAMALASの活用実態について、東京都市町村立図書館長協議会(以下、「館長会」と略)の協力をいただき、アンケートを行った。TAMALAS 個別処理システムは、日常的に多くの自治体で使われていることが分かった。「TAMALAS が普及した」ことは「地域で希少図書は残そうとする」ことの普及と言えるだろう。ただし、一括処理システムの利用は、まだ12自治体に留まっている。
- ・「館長会」では、懸案だった「多摩地域図書館資料除籍ガイドライン」が決定された。
- ・何でも収集し所蔵していると思いがちな国立国会図書館だが、実は所蔵しておらず、多摩地域の図書館では何館も所蔵しているという資料もある。除籍の際には同館へ寄贈の仲立ちを考えようとしたが実現には至らなかった。
- ・里親事業の件数は多くはなかったが継続して実施できた。
- ・所蔵資料のデジタル化は図書館界共通の課題になっているが、たましん歴史資料室の経験は好例だろう。これは、総会記念講演会として、Youtubeで紹介することができた。
- ・現役職員を対象に始めた「多摩デポ実践講座」は2年目を迎えたが、継続的な参加者が少なかった。
- ・書誌データにISBNを入れていないたましん歴史資料室の所蔵資料に、機械的にISBNを付与するという研究は一区切りつけることができ、TAMALASでも国立国会図書館同様、検索対象館に加えた。引き

続き、府中市の協力によって、同館のISBN未記載の蔵書でも実証研究を進めている。今後は、行政・地域資料などISBNがついていない資料の同定が可能になる「多摩デポ統合検索システム」構築の研究を加速させたい。

- ・全国を見ると、県立図書館が主導して県内の希少資料を残す共同保存を進めているところが何県も出てきている。その状況をホームページから調査し、「多摩デポ通信」で発表した。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(2) 第二号議案 2022年度決算報告及び監査報告承認について

説明(田中ヒロ 会計)

- ・総会議案書に会計関係の議案の説明資料をつけたので、内容的にはお伝えできているかと思う。
- ・収入では、会費の納入率が大変高く感謝している。
- ・Zoomの利用料は、管理費(理事会や事務局会議)と事業費(デポ講座や研究会)で按分。管理費の会場費は総会の会場費の支払い方法に変更があり、2年分の支払いとなったため大きくなっている。
- ・けやき出版に支払うブックレットの製作費が、用紙代の異常な高騰のため、一気に10万円以上上がって473,000円となった。活動計算書に記載している54,342円は、(販売+配布)数×製作単価。できあがったブックレットは、会計上は販売されないかぎり当会の財産として、貸借対照表の「刊行物在庫」の額が膨らむことになる。
- ・印刷物の発行等による普及啓発事業は、75,170円となっているが、最新16号は3月31日発行だったため、実際の販売は2023年度から。予約のあった大口の1件のみの収入が含まれている。
- ・経常外費用については、前受け賛助会費について昨年不手際があり、現金のやり取りはないのだが、経常経費の枠からは外した。
- ・全体として、約14,000円を2023年度に繰越すこととなった。細かい用途については、別に帳簿を作成しているので、質問があればお答えできる。

監査報告(山崎明子 監事)

4月21日に2022年度分の会計監査を実施した。いずれも適法かつ妥当と認める。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(3) 第三号議案 2023年度事業計画決定について

説明(堀 渡 事務局長、中川理事・齊藤理事補足)

- ・法人化から15年経ち、リアルな共同保存図書館は実現していないが、我々の活動は多摩地域の図書館に認知され、資料保存の重要性も伝えられてきたと考えている。それを踏まえ、今後さらに都立図書館にも広域的な図書館行政のひとつとして共同保存図書館の取り組みをするよう働きかけをしていく。
- ・国立国会図書館では、個人への「デジタル化資料配信事業」が始まった。利用の面では大いに評価するが、一方で法定納本制度の図書館として、未所蔵資料の収集をどのように図っていくか、その対策にも注目していきたい。
- ・講座については3本立てで考えている。
 - ▷会員でなくとも誰でも参加できる「多摩デポ講座」は継続して企画する。
 - ▷2021年度から始めた「多摩デポ実践講座」は、TAMALAS 一括処理システムの普及を目指していくことと、「多摩デポ統合検索システム」公開を見据え、現役職員の関心と呼び、その知恵を借りられるような企画とする。
 - ▷新たに、事前登録制の連続講座として開催する「多摩地域ライブラリアン講座」は、多摩地域の現役職

員たちとの繋がりを強めて多摩デポの活動に理解と協力を得られることを目指す。また、図書館の資料保存の重要性と、図書館にはきちんと研修を受け、技量を高めた職員が関わっていくのが重要だということ伝えていきたい。

- ・昨年度から継続している府中市の所蔵資料でISBN未付与の資料に機械的にISBNを付与する研究は、他の自治体の目録整備にも応用でき、それによってTAMALASの活用が一層進むものと考えている。また、元来ISBNが付与されていない資料も確実に統合的に検索できる「多摩デポ統合検索システム」の公開を目指した研究を進めていく。
- ・全国では、県立図書館が主導して希少性のある資料を県域単位で残そうという動きが始まっている。共同保存に対する調査を継続しながら啓発を進めていきたい。
- ・2023年度はブックレットの発行は行わず、今後の発行方法について検討することとする。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(4) 第四号議案 2023年度活動予算決定について

説明(雨谷逸枝 会計)

- ・会員数の減少が続けば、予算規模を小さくせざるを得ない。
- ・多摩デポ実践講座や新たに始める多摩地域ライブラリアン講座で現役職員の参加を見込み、会員・寄付増を期待した案を作成している。期待通りの収入が得られれば、若干の黒字を見込める予算を組んだ。
- ・会員から「助成金などで、応募できるものがあれば応募する」ことを提案されているので、検討する。
- ・多摩地域ライブラリアン講座では受講料を徴収することにし、外部講師には謝礼を出す。用紙代の高騰が続くことが見込まれるため、限られた現金収入をブックレット製作費から講座経費にシフトする。
- ・講座にZoomを利用することが多くなるため、契約費を事業費で2/3、管理費で1/3の割合に変更した。
- ・水道光熱費の値上げが必須のため、節約の努力をしつつも15%増の予算とした。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

(5) 第五号議案 任期満了に伴う役員の改選について

説明(堀 渡 事務局長)

- ・現役員の内、3名が体調不調等のため退任することになった。新任3名、再任8名を選出したい。

質疑 なし

採決 表決票を含め満場一致で承認

6 議長及び書記の解任

7 理事長挨拶

皆様のご協力をいただき、全ての議事を終了した。賛同していただいた議案に添って新年度の活動を進めていく。新しい事業も始めるので、引き続き会員の方のご協力を願うとともに、新たな会員の参加を期待している。

8 退任理事・新任理事挨拶・閉会

堀越洋一郎氏 退任挨拶。 雨谷逸枝氏 新任挨拶。(浴 靖子氏、小池信彦氏、手嶋孝典氏は欠席)

以上